



【アーティストサポート】へ、多くの皆様からお気持ちをお寄せいただきましたことに、心より感謝申し上げます。

これからも引き続き変わらぬご支援をどうぞよろしくお願いします。



アーティストサポートの詳細は
こちらをご覧ください。

◆◆◆◆ 2025年度ご支援いただいた皆さま ◆◆◆◆

<年間サポート>

【個人サポーター】

朝妻 幸雄 天野 雅子 M.I. 岩村 和央 K.U. 上村 憲裕 榎本 英二 Y.E. K.O. 大原 志津子 片山 由美子 K.K.
神田 尚子 北村 真 小林 真希子 R.K. 相良 延利 新貝 康司 鈴木 忠明 M.T. R.T. 武田 健二 伊達 朱実
田中 治郎 東條 Lilly K.T. トゥルーラブ 真智子 苫米地 英人 K.N. E.N. 児子 弥生 S.N. 長谷川 智子 T.H.
樋口 美枝子 M.H. 平山 美由紀 藤野 盾臣 細沼 康子 M.H. 松尾 芳樹 E.M. K.M. 真野 美千代 三木谷 晴子
安田 牧子 山川 和子 山崎 明日香 横谷 雅子
(匿名希望 17名)

【法人サポーター】

三和プリンティング株式会社 株式会社 青林堂
三井住友カード株式会社 ロイヤルリゾート株式会社
株式会社ソーシャルキャピタルマネジメント きづきアセット株式会社
株式会社ロジックアンドエモーション ライフプラン株式会社

<館野泉バースデープロジェクト「みんなで祝おう! 卒寿記念コンサート」>

天野 雅子 池戸 真理子 一柳 吉子 稲垣 美晴 えこ 上原 洋子 植村 月枝 岡村 茉利奈 木全 恵美子
CATHERINE CATES 久間 和子 久保 春代 坂井 和 佐々木 晴子 澤井 みのり スミ・ビアノ・スクール研究会 鈴木 早苗
高橋 理都子 田邊 英利子 照井 はるみ K.T. 中村 康江 日本シリエラス協会 橋本 利明 服部 喜恵子 林 幸仁 原田 君代
平山 美由紀 福田 誠 藤澤 ふさ子 真野 美千代 丸山 康 安田 牧子 湯本 早百合 H.W.
館野泉ファンクラブ 館野泉ファンクラブ九州 館野泉ファンクラブ北海道 タビオラの会
(匿名希望 4名)

【法人サポーター】

ミサワホーム株式会社 日本エリート株式会社
AGCグラスプロダクツ株式会社 三和シャッター工業株式会社 株式会社スルガ
DAIKEN株式会社 ニチハ株式会社 株式会社 LIXIL
エイベックス・クラシックス・インターナショナル株式会社 株式会社オクタヴィア・レコード ヤマハ株式会社

<ウィーン少年合唱団 オフトイム・サポート>

石坂 雅美 K.I. K.K. Y.K. 佐久間 隆弥 Rimiko N.S. 竹内 麻里子 中尾 圭吾 T.H. 樋口 美枝子 K.F.
細沼 康子 M.H. M.M. 水足 久美子 水足 秀一郎 口口コミ
(匿名希望 11名)

<ウィーン少年合唱団 ツアー・サポート>

江田 明子 T.O. K.K. 佐久間 隆弥 Rimiko M.T. 平山 美由紀 細沼 康子 M.M. 柳瀬 美佐子 口口コミ
(匿名希望 9名)

<千住真理子に「花を贈ろう!」プロジェクト>

石坂 雅美 北村 真 城戸 健二 桑原 仁志 小森 桂子 佐藤 亨 田中 治郎 H.H. 道又 利 村上 晃彦 横田 邦子
(匿名希望 7名)

2025年11月3日現在 敬称略

お知らせ

現在2025年度年間サポートを受付中です。詳細は、ジャパン・アーツの公式WEBサイトおよび公演チラシ挟み込みの申込用紙等をご覧ください。

株式会社ジャパン・アーツ アーティストサポート係 TEL.03-3499-7720 (平日11:00~17:00 年末年始を除く)



©Marco Borggreve

ジャニーヌ・ヤンセン & デニス・コジュヒン デュオ・リサイタル

Janine Jansen & Denis Kozhukhin Duo Recital

2025年11月13日(木) 19:00開演

東京オペラシティ コンサートホール

7:00p.m., Thursday, November 13, 2025 at Tokyo Opera City Concert Hall

主催：ジャパン・アーツ 共催：(公財)東京オペラシティ文化財団

後援：オランダ王国大使館 協力：ユニバーサル ミュージック



Kingdom of the Netherlands

令和7年度 文化庁 劇場・音楽堂等における
舞台芸術振興実験支援事業



文化庁

PROGRAM

シューマン：ヴァイオリン・ソナタ第1番 イ短調 Op.105

R. Schumann: Violin Sonata No.1 in A minor, Op.105

第1楽章：情熱的な表情をもって 1st Mov.: Mit leidenschaftlichem Ausdruck

第2楽章：アレグレット 2nd Mov.: Allegretto

第3楽章：生き生きと 3rd Mov.: Lebhaft

Brahms : ヴァイオリン・ソナタ第2番 イ長調 Op.100

J. Brahms: Violin Sonata No.2 in A major, Op.100

第1楽章：アレグロ・アマビレ 1st Mov.: Allegro amabile

第2楽章：アンダンテ・トランクイロ — ヴィヴァーチェ 2nd Mov.: Andante tranquillo – Vivace

第3楽章：アレグレット・グラツィオーソ(クアジ・アンダンテ) 3rd Mov.: Allegretto grazioso (quasi andante)

* * * * *

クララ・シューマン：3つのロマンス Op.22

C. Schumann: Three Romances, Op.22

第1曲：アンダンテ・モルト、変ニ長調 I: Andante molto, in D-flat major

第2曲：アレグレット、優しい語り口で、ト短調 II: Allegretto, mit zartem Vortag, in G minor

第3曲：情熱的に、速く、変ロ長調 III: Leidenschaftlich schnell, in B-flat major

Brahms : ヴァイオリン・ソナタ第3番 ニ短調 Op.108

J. Brahms: Violin Sonata No.3 in D minor, Op.108

第1楽章：アレグロ 1st Mov.: Allegro

第2楽章：アダージョ 2nd Mov.: Adagio

第3楽章：ウン・ポーコ・プレスト・エ・コン・センティメント 3rd Mov.: Un poco presto e con sentimento

第4楽章：プレスト・アジタート 4th Mov.: Presto agitato

ジャニース・ヤンセン&デニス・コジュヒン デュオ・リサイタル 2025年日本公演

11月12日(水) [東京] 浜離宮朝日ホール

主催:朝日新聞社／浜離宮朝日ホール

11月13日(木) [東京] 東京オペラシティコンサートホール

主催:ジャパン・アーツ 共催:(公財)東京オペラシティ文化財団

PROFILE

ジャニース・ヤンセン(ヴァイオリン)

Janine Jansen, Violin



© Kaupo Kikkas

「世界のスター・ソリストの中で、彼女は最も鋭敏な聴き手であり、室内楽のパートナーとしても巧みで親密な存在だ。」

—— ニューヨーク・タイムズより

世界で最も著名なオーケストラや指揮者と、長年にわたり関係を築いている。2025/26シーズンは、パッパーノ指揮ロンドン響、マケラ指揮ロイヤル・コンセルトヘボウ管、ヤルヴィ指揮ドイツ・カンマーフィルとツアード行う。また、カメラータ・ザルツブルグとのアーティスティック・パートナーシップを継続、アムステルダム・シンフォニエッタとともにヴィヴィアルディの「四季」をアムステルダムで演奏するほか、ブラジル、アルゼンチンなど南米各地でツアード行っている。ウイーン楽友協会では、2024/25シーズンの「注目のアーティスト」として、さまざまなプロジェクトが展開された。また、現代最高峰のソリストとして、ベルリン・フィルの2025/26シーズンのアーティスト・イン・レジデンスの就任が発表された。

さらに、ガフィガン指揮バイエルン放送響、ザンデルリング指揮ルツェルン響、オラモ指揮NDRエルプ・フィルとの共演が予定されている。NDRエルプ・フィルとの共同委嘱作品であるブリッタ・ビューストレムのヴァイオリン協奏曲「ショートニング・デイズ」はドイツ初演となる。

デュオ・パートナーのデニス・コジュヒン、キム・ソスクとは、カーネギーホール、ウイーン楽友協会、フィルハーモニー・ド・パリ、コンセルトヘボウなどでリサイタルを開催している。

デッカ・クラシックから2024年にリリースされたクラウス・マケラ指揮オスロ・フィルとのシベリウスのヴァイオリン協奏曲とプロコフィエフのヴァイオリン協奏曲第1番は、高い評価を得た。

ユトレヒト国際室内楽音楽祭の創設者兼芸術監督、シオン音楽祭の共同芸術監督、2023年よりクロンベルク・アカデミーのヴァイオリン科教授を務めており、2024年クロンベルク音楽祭ではギドン・クレーメル、クレメラータ・バルティカと共に演じた。

コーチェ・ウイゼンバーグ、フィリップ・ヒルシュホルン、ボリス・ベルキンに師事。

使用楽器は、1715年製のシュムスキー・ローデ・ストラディヴァリウス。

2025年秋の極東ツアーでは、1704年製のアントニオ・ストラディヴァリウス「グレニー(Glennie)」で演奏する。



Janine Jansen

デニス・コジュヒン(ピアノ)

Denis Kozhukhin, Piano



© Alex Iordache

作品など、幅広いレパートリーを誇る。

マドリードのレイナ・ソフィア音楽院でドミトリー・バシキーロフ、クラウディオ・マルティネス=メナーの指導のもと研鑽を積み、さらにコモ湖ピアノ・アカデミーにて、フー・ツォン、スタニスラフ・ユーデニッチ、ペーター・フランクル、ボリス・ベルマン、チャールズ・ローゼン、アンドレアス・シュタイアーラの薫陶を受けた後、シュトゥットガルトではキリル・ゲルシュタインにも師事。

近年では指揮者としても活動を始め、演奏家としての新たな地平を切り拓いている。



Denis Kozhukhin

2010年にエリザベート王妃国際音楽コンクールで優勝して以来、ロンドン響、ロイヤル・コンセルトヘボウ管、ロッテルダム・フィル、ベルリン・シュターツカペレ管などと共に演を重ねている。

リサイタルや室内楽の名手としても高い評価を受けており、ヴェルビエ音楽祭、グラフェネック音楽祭、ドレスデン音楽祭、ルール・ピアノフェスティバル、BBCプロムスなど、世界の著名な音楽祭に定期的に出演し、2024年夏にはBBCプロムスへの再登場とハリウッド・ボウルでのデビューを果たした。

これまでに共演してきたオーケストラは、NHK響、オスロ・フィル、モントリオール響、サンフランシスコ響、ダラス響、WDR響、デンマーク国立響、フィルハーモニア管、ロイヤル・フィルなどがあり、指揮者では、ラファエル・パヤーレ、ハンヌ・リントウ、サントウ=マティアス・ロウヴァリといった名だたる指揮者と数多くの共演を重ねている。

録音では、ペントーン・レーベルの専属アーティストとして、ハイドン、メンデルスゾーン、チャイコフスキー、グリーグ、ラヴェル、ガーシュウインなどの

シューマン:ヴァイオリン・ソナタ第1番 イ短調 Op.105

ドイツ・ロマン派の先導者ロベルト・シューマン(1810-56)が残した3つのヴァイオリン・ソナタは、全て創作活動の終盤に書かれている。その内第1番と2番は、生涯最後の赴任地デュッセルドルフの音楽監督時代の1851年に続けて作曲された。創作のきっかけは、シューマンに当ジャンルの作品がないのを惜しんだ友人のヴァイオリン奏者ダーヴィト(メンデルスゾーンの協奏曲の協力者としても有名)の勧めによるところられている。

第1番は、1851年9月12~16日の僅か5日で完成され、翌年3月ライプツィヒにて、ダーヴィトのヴァイオリン、クララ・シューマンのピアノで初演された。曲は、簡潔な書法の中に力強さとシューマンらしいロマン性を湛えた音楽。純粋な緩徐楽章が置かれていない点や、終楽章の最後に第1楽章第1主題を回想することで全体の統一が図られている点が特徴的だ。

第1楽章:情熱的な表情をもつて。憧れを秘めた第1主題と明朗な第2主題を軸に運ばれる、まさに情熱的な音楽。

第2楽章:アレグレット。詩情豊かで変化に富んだ楽章。へ長調の主要主題に短調の副主題が挟まる。

第3楽章:生き生きと。目まぐるしい動きを主体とした終曲。慌ただしい第1主題と柔らかめの第2主題を中心に進む。

ブラームス:ヴァイオリン・ソナタ第2番 イ長調 Op.100

シューマンが世に出るきっかけを与えたドイツ・ロマン派の大家ヨハネス・ブラームス(1833-97)も3つのヴァイオリン・ソナタを残している。これらは1879~88年という創作活動の最盛期の所産。自己批判が強い彼は数曲のソナタを破棄し、46歳になって第1番を世に出した。それゆえ発表された3曲は自信作であり、ドイツ・ロマン派を代表する名曲揃いだ。

ブラームスは、1886年からの3年間、イスのトゥーン湖畔で夏を過ごし、週末には詩人ヴィクトマンのベルンの家を訪れて新作等を披露した。従ってこの時期は主に室内楽や歌曲が作られている。第2、3番のヴァイオリン・ソナタも同様で、第2番は滞在1年目の1886年に作曲され、同年12月ウィーンにて初演された。

本作は当時恋愛感情を抱いていたアルト歌手シュピースの“到着を待ちながら”作曲されたという。それゆえ、第1楽章の第1主題は「早く来い」、第2主題は「調べのように私を」という彼女のために書いた歌曲の旋律が用いられている。トゥーン滞在1年目は憂いのない日々だったこともあって、曲調は温かく優美。「ブラームスの中で最も旋律的な作品」とも称されている。

第1楽章:アレグロ・アマービレ(=愛らしく)。温和な第1主題はワーグナー「ニュルンベルクのマイスター」の「ワルターの賞歌」との類似性で知られる。第2主題は抒情的な旋律。

第2楽章:アンドante・トランキロ — ヴィヴァーチェ。歌謡的な遅い部分と歯切れよい快速部分が交互に登場。緩徐楽章とスケルツォを兼ねたユニークな構成がなされている。

第3楽章:アレグレット・グラツィオーソ(クアジ・アンドante)。最低音弦のG線で奏される冒頭の主題を軸にした幻想的な終曲。

クララ・シューマン:3つのロマンス Op.22

ロベルト・シューマンの愛妻であり、年下のブラームスも強く慕ったクララ・シューマン(1819-96)の代表作の1つ。当時最高クラスのピアニストとして活躍したクララは、作曲家としても幼くして才能を發揮した。しかし女性作曲家が認められなかつた時代だったがゆえに、37歳頃に創作をやめ、奏者及び教師にはほぼ専念した。とはいへ、それ相応の作品を残しており、近年は見直しが図られている。

彼女の作品の中でも演奏される機会が多いこの曲は、1853年の作。ヨーゼフ・ヨアヒムのヴァイオリンと自身のピアノで初演され、ヨアヒムに献呈された。すなわちシューマン夫妻が幸福だった最後の時期(夫は翌年ライン河に身を投げ、精神病院に入る)の所産である。曲は、1849年に夫が彼女にプレゼントした同名作品がモデルともいわれる幻想的な小品集で、可憐な美しさを湛えた温かく流麗な音楽が続く。

第1曲:アンダンテ・モルト、変ニ長調

第2曲:アレグレット、優しい語り口で、ト短調

第3曲:情熱的に、速く、変ロ長調

ブラームス:ヴァイオリン・ソナタ第3番 ニ短調 Op.108

1886年、スイスのトゥーン湖畔で第2番と同時に着想され、1888年に完成された作品。ベルンのヴィトマン宅で私の初演後、同年12月ブダペストにて公開初演された。本作は、親友の死や病気の報が相次いだ当時の心象を反映しているといわれるが、第2番と並行して着想されているので、最初から対照的な曲調が企図されてもいる。曲は激情的な性格を持つ音楽。短調を基調とする点と全4楽章の構成が他の2つのソナタとは異なっている。

この曲は、ブラームスが終生思慕の情を寄せた、亡き恩人シューマンの妻で名ピアニスト、クララへの手紙に「貴女の指の下で夢見るよう弾かれることは、とても心地よく、心が和む」と記し、彼女も「滅多に経験できない純粋な喜び。ひとつひとつの楽章が、口では言えないくらい好き」と返すなど、2人の心の交信を内包している。ただし実際には、当時随一のピアニスト、ハンス・フォン・ビューローへの献呈を前提に書かれたため、ピアノ・パートが非常に難しく、ブラームスも「名人でなくては弾けない」と述べている。

第1楽章:アレグロ。哀感を湛えた第1主題に始まり、すぐに激しく進行。表情豊かな第2主題が続く。

展開部ではピアノの低音がイ音(精神を病んだシューマンの頭の中で鳴り続けたといわれる音)を奏し続ける。

第2楽章:アーデジオ。冒頭に最低音弦のG線で奏される甘美な歌を中心に進む、ニ長調の緩徐楽章。

第3楽章:ウン・ポーコ・プレスト・エ・コン・センティメント。憂いを帯びた短いスケルツオ。

第4楽章:プレスト・アジタート。決然たる主題とコラール風の長調主題を軸に展開される情熱的な終曲。

美しきヴィルトゥオーソが世界の至宝、12挺のストラディヴァリウスの魅力を解き明かす。

12のストラディヴァリウス ジャニーヌ・ヤンセン

【収録曲】

- ①ファリヤ/クライスラー編:スペイン舞曲(クライスラー-34)
- ②スーカ/愛の歌 作品7の1(アラード)
- ③C.シューマン:3つのロマンス 作品22 第1番(サン・ロレンツォ)
- ④R.シューマン:幻想小曲集 作品73(キャブテン・サヴィル)
- ⑤ヴュータン:3つの無言歌 作品7 第3曲:失望(ヴュータン)
- ⑥チャイコフスキーアウア編:歌劇(フガーノネギ)からレスキーのアリア(シュムスキ)
- ⑦シマノフスキ:《神話》作品30 第1曲:アレトゥーサの泉(イダ・ヘンデル)
- ⑧ラヴェル:ハバネラ形式の小品(De Chaponay)
- ⑨エルガー:ため息 作品70(タイレル)
- ⑩ラフマニノフ:チェロ・ソナタ短調 作品19から 第3楽章(ミルシテイン)
- ⑪チャイコフスキーメロディ 作品42の3(ティツィアーノ)
- ⑫ホイベルガー/クライスラー編:真夜中の鐘(クライスラー-33)
- ⑬クライスラー:シンコペーション(クライスラー-34)
- ⑭クライスラー:愛の悲しみ(クライスラー-33)
- ⑮ジエローム・カーン/バッパー編:《ロバータ》から(イエスタディ)(シュムスキ)

ジャニーヌ・ヤンセン(ヴァイオリン)

アントニオ・パッパーノ(ピアノ)

録音:2020年11月30日~12月2日 ロンドン、カドガンホール

販売元:ユニバーサル ミュージック合同会社



UCCD-45001 ¥3,080(税込)



類稀なる才能、深い信頼で結ばれた二人が紡ぐ至高の音楽

庄司紗矢香 & ジャンルカ・カシオーリ デュオ・リサイタル

2026年3月6日(金) 19:00 サントリーホール

モーツアルト:ヴァイオリン・ソナタ第24番 へ長調 K. 376 / ブラームス、ディートリッヒ、シューマン: F.A.E ソナタ
ダラビッコラ:タルティニアーナ第2番 / ブラームス:ヴァイオリン・ソナタ第1番 Op.78「雨の歌」

S: ¥8,500 A: ¥7,500 B: ¥6,500 C: ¥5,500